



News Release

2021年10月28日
NITE（ナイト）
独立行政法人製品評価技術基盤機構
製品安全センター（東京）

中古品の見えない危険に注意 ～関東甲信越における事故を中心に～

1. 関東甲信越地方の中古品の事故

（1）年度別事故発生件数と被害状況

2016年から2020年の間にNITE（ナイト）が収集した製品事故情報^{※1}において、関東甲信越地方の1都9県（茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県）で発生した、中古品^{※2}の事故は107件ありました。中古品の事故について、関東甲信越の都県別の年別事故発生件数を表1、被害状況別事故発生件数を表2、原因区分別事故発生件数を表3、製品別事故発生件数の多い10品目を表4、中古品であることが事故の要因となったと考えられる31件の要因別の事故発生件数を表5に示します。

※1 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含む。

※2 本資料では、中古品販売店で購入したもの、インターネットオークション及びインターネット通販で購入した中古品、譲渡された物、中古住宅などに既設で設置されていたものなどを「中古品」と呼ぶ。

表1. 年別事故発生件数

		茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	山梨県	長野県	合計
事故発生年	2016年	1		5	4	4	6	3	1			24
	(内数)火災事故	(1)		(4)	(2)	(4)	(5)	(3)				(19)
	2017年	1		1	7	3	5	8	1			26
	(内数)火災事故			(1)	(5)	(3)	(4)	(6)				(19)
	2018年		1	3	2	1	9	3	3			22
	(内数)火災事故		(1)	(1)	(1)	(1)	(6)	(3)	(2)			(15)
	2019年			1	1	2	6	7	1		2	20
	(内数)火災事故			(1)	(1)	(1)	(5)	(4)	(1)		(2)	(15)
2020年		1	2	2	2	5	2	1			15	
(内数)火災事故		(1)	(1)	(1)	(2)	(4)	(2)	(1)			(12)	
合計	2	2	12	16	12	31	23	7	0	2	107	
(内数)火災事故	(1)	(2)	(8)	(10)	(11)	(24)	(18)	(4)	(0)	(2)	(80)	

表 2. 被害状況別事故発生件数

		茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	山梨県	長野県	合計	
被害状況	人的被害	死亡			1		1	1	2			5	
		(内数)火災事故			(1)							(1)	
		重傷	1		2	1		1	1				6
		(内数)火災事故											(0)
		軽傷			2	3	2		1				8
	(内数)火災事故			(1)	(1)	(2)		(1)				(5)	
	物的被害	拡大被害	1	2	6	7	9	13	16	2		2	58
		(内数)火災事故	(1)	(2)	(5)	(6)	(8)	(12)	(15)	(2)		(2)	(53)
		製品破損			1	5	1	17	3	2			29
		(内数)火災事故			(1)	(3)	(1)	(12)	(2)	(2)			(21)
被害なし								1				1	
(内数)火災事故												(0)	
合計		2	2	12	16	12	31	23	7	0	2	107	
(内数)火災事故		(1)	(2)	(8)	(10)	(11)	(24)	(18)	(4)	(0)	(2)	(80)	

表 3. 原因区分別事故発生件数

区分		事故原因区分説明	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	山梨県	長野県	総計	
製品に起因する事故	A	設計、製造又は表示等に問題があったもの			1	6		7	4				18	
		(内数)火災事故			(1)	(2)		(5)	(4)				(12)	
	B	製品および使い方に問題があったもの						1					1	
		(内数)火災事故						(1)					(1)	
	C	経年劣化によるもの					1	1	2	3			7	
		(内数)火災事故					(1)	(1)	(2)	(3)			(7)	
	G3	製品起因であるが、その原因が不明のもの		1	1	2	5	4	3				16	
		(内数)火災事故		(1)	(1)	(2)	(4)	(3)	(2)				(13)	
	小計			0	1	2	9	6	14	10	0	0	0	42
	(内数)火災事故			(0)	(1)	(2)	(5)	(5)	(11)	(9)	(0)	(0)	(0)	(33)
製品に起因しない事故	D	施工、修理又は輸送などに問題があったもの						1					1	
		(内数)火災事故											(0)	
	E	誤使用や不注意によるもの		1			1	5	4	4			15	
		(内数)火災事故		(1)			(1)	(4)	(2)	(2)			(10)	
	F	その他製品に起因しないもの	1		4	2	2	4	1	2			16	
		(内数)火災事故			(3)	(2)	(2)	(4)		(2)			(13)	
	小計		1	1	4	2	3	10	5	6	0	0	32	
	(内数)火災事故		(0)	(1)	(3)	(2)	(3)	(8)	(2)	(4)	(0)	(0)	(23)	
	その他	G	原因不明なもの	1		5	5	3	6	8	1		2	31
			(内数)火災事故	(1)		(3)	(3)	(3)	(4)	(7)			(2)	(23)
H		調査中のもの			1			1					2	
		(内数)火災事故						(1)					(1)	
小計		1	0	6	5	3	7	8	1	0	2	33		
(内数)火災事故		(1)	(0)	(3)	(3)	(3)	(5)	(7)	(0)	(0)	(2)	(24)		
合計		2	2	12	16	12	31	23	7	0	2	107		
(内数)火災事故		(1)	(2)	(8)	(10)	(11)	(24)	(18)	(4)	(0)	(2)	(80)		

表 4. 事故発生件数上位 10 品目の製品別事故発生件数

製品名	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	山梨県	長野県	合計
パソコン				1	3	4	2				10
(内数)火災事故					(2)	(3)	(1)				(6)
電子レンジ			1	1		6					8
(内数)火災事故			(1)	(1)		(6)					(8)
冷蔵庫	1	1				4	1	1			8
(内数)火災事故	(1)	(1)				(4)	(1)	(1)			(8)
電気ストーブ				2		2	2			1	6
(内数)火災事故				(2)		(2)	(2)			(1)	(6)
電気洗濯機				3			3				6
(内数)火災事故				(2)			(3)				(5)
テレビ				1			2	1			4
(内数)火災事故				(1)			(1)	(1)			(3)
石油ファンヒーター			2		2						4
(内数)火災事故			(2)		(2)						(4)
自転車			1	1		2					4
(内数)火災事故						(1)					(1)
ガス給湯器					1	2	1				4
(内数)火災事故					(1)	(1)	(1)				(3)
携帯電話			2			1	1				4
(内数)火災事故			(2)				(1)				(3)
合計	1	1	6	9	6	21	12	2	0	1	58
(内数)火災事故	(1)	(1)	(5)	(6)	(5)	(17)	(10)	(2)	(0)	(1)	(47)

表 5. 中古品の事故の分類

	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	山梨県	長野県	合計
中古品がリコール対象製品だったもの				4		6	3		1		14
経年劣化などの不具合があったもの				2	2	4	2				10
入手以前の修理不良、改造が要因となったもの						1	1	1			3
誤った組立がされた状態、掃除など手入れが必要な状態で入手し、気付かず使用						1	1				2
欠品や不備に気付かず使用者が設置・工事したもの						1	1				2
合計	0	0	0	6	2	13	8	1	1	0	31

(2) 関東甲信越地方において発生した事故の事例

① 入手以前の修理不良、改造が要因となった事故（電気ストーブ）

- ・ 2018年1月、神奈川県、製品破損

（事故内容）

使用中の電気ストーブを焼損する火災が発生した。

（事故原因）

電気ストーブの電源コードを修理のために本体内部で切断し、別の電源コードを手より接続されていたため、接続部が接触不良により異常発熱し、出火に至ったものと推定される。

なお、取扱説明書には、「使用者自身での修理は事故の原因となる。修理は販売店等に依頼する。」旨、記載されている。

② リコール対象製品による事故（ノートパソコン）

- ・ 2017年5月、埼玉県、拡大被害

（事故内容）

インターネットで購入した中古品のノートパソコンを使用中、ノートパソコン付近から火が出て、周辺を焼損した。

（事故原因）

リコール対象品のノートパソコンのセル製造時に異物が混入したため、電極間で内部短絡が生じて異常発熱し、発火して焼損したものと推定される。

③ 経年劣化などの不具合があった事故（電子レンジ）

- ・ 2018年3月、東京都、製品破損

（事故内容）

電子レンジを使用後、焼損する火災が発生した。

（事故原因）

電子レンジのローラーが故障し庫内金属回転台が回転しない故障状態のまま、継続使用したため、傾いた金属回転台と底面の金属部が接触するとともにスパークが発生し、発熱したことで底面の樹脂製のプーリーに着火したものと推定される。

なお、取扱説明書には、「故障したときは販売店に修理を依頼する。」旨、記載されている。

（本件に関する問い合わせ先）

〒151-0066 東京都渋谷区西原2-49-10

独立行政法人 製品評価技術基盤機構 製品安全センター 事故調査課

担当者：松本（まつもと）、佐藤（さとう）、松岡（まつおか）

電話：03-3481-1820